



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2018年9月21日 No.19

新幹線の「乗降終了合図の変更」について みなさん、どう思いますか？

現在、会社は「新幹線の乗降終了表示に関する駅社員の配置および教育」の周知を関係社員に図っています。その内容は、規定を改正して新幹線列車に対する「乗降終了合図」を「乗降終了表示」に変更するとしています。

これまで新幹線のホーム担当社員は運転適性が必要でしたが、この変更により現場での必要な教育・訓練を受ければ、誰でも新幹線のホーム担当業務ができることとなります。

お客さまの命を守る責任と使命がある



しかし、新幹線ホーム担当業務は新幹線列車扱いだけでなく、新幹線の運行全般の知識やホーム上でのさまざまな異常時対応が求められます。さらに社員1人で業務を行う中、迅速な対応や判断を行うケースもあり、経験や専門的な訓練を積むことで習得した「お客さまの命を守る責任と使命」をもって日夜業務しています。

会社は「作業自体に変更はない」とした上で「安全性が低下することは考えていない」と現場社員に説明しています。しかし、現場で働く社員からはホーム上の安全確保に対する意識の低下とともに、新幹線ホーム担当業務だけではなく、駅輸送業務全体の将来展望や若い社員に対する人材育成・技術継承への不安の声があがっています。

新幹線ホームの安全をつくりだそう！

東日本ユニオンは現場で働く組合員と社員の声を受け、寄せられた声をもとに9月20日、申第7号「『新幹線の乗降終了表示に関する駅社員の配置および教育について』に関する申し入れ」を提出しました。この申し入れでは「乗降終了合図」を「乗降終了表示」に変更する目的を明らかにすることを求めているほか、新幹線運転取扱い業務を行う駅における輸送体制、技術継承などの将来像を明らかにすることなどを求めています。

**東日本ユニオンは身近な問題に取り組んでいます
駅輸送職の未来に向けて一緒に取り組もう！**